

八潮市立 八幡中だより

目指す学校像
指し示す教育目標
生徒が輝き、夢や希望を育む学校
・人を大切にする生徒
・自分の考えを持ち表現できる生徒
・挑戦し続ける生徒
重点目標
3つの基本「時を守り、場を清め、礼を正す」



ホームページ

<https://yashio-yawata-jh.edumap.jp>

令和6年10月7日（月）発行
第6号 在籍生徒316名

いじめのない学校へ

校長 市川 真志

9月の後半から、朝夕が大分涼しくなってきました。まだまだ暑い日もありますが、秋を感じられる日も多くなってきましたね。何より、食べ物がおいしくて、ついつい食べ過ぎてしまいます。皆さんも暴飲暴食には十分注意しながら、「実りの秋」を満喫してください。



さて、先日、3年生のあるクラスで、久しぶりに道德の授業をやらせて頂きました。しばらく授業をやってこなかったことと、そんな中タブレット端末を使った授業に挑戦したことにより、時間内に終わらない残念な授業になってしまいました。本当に申し訳無かったです。

この授業の教材は「卒業文集最後の二行」という、いじめをテーマにしたものです。筆者は、小学校時代に自分が行ったいじめについて告白しながら、後悔の念を綴っています。いじめは、いじめられた人も大きく傷つきますが、いじめた人の心にも大きな傷を残すものだ、改めて感じました。

いじめには、いつも3つの立場が存在します。1つ目は、被害者（いじめられた子）。2つ目は、加害者（いじめた子）。3つ目は、傍観者（見ていて何もしない子）です。加害者と被害者には、様々な人の関わりが行われ、励ましや指導が入ることで、変わるきっかけが与えられます。しかし、3つ目の傍観者は、誰の指導も入らない場合がほとんどです。私は、この傍観者にどう指導するかで、いじめをなくせるかどうかが決まると思っています。

かつて、私の担任した学級でも、いじめが起こったことがありました。私が1年生の担任を初めてやったときのクラスです。そのクラスは、明るく元気な生徒が多く、みんなで考えた学級歌を毎日の帰りの会で歌ったり踊ったりするようなクラスでした。学年が終わりに近づいた2月のある日、その学級でいじめがあったことがわかりました。1ヶ月近く前から、一人の男子生徒に対し数人で、廊下ですれ違いざまに蹴りを入れたり、昼休みにボールをぶついたりしていたのです。私は、多くの先生方の力を借りて、全生徒の指導を行いました。家庭にも連絡し、協力を仰いだところ、関わっていたすべての生徒が深く反省し、いじめはなくなりました。しかし、私が最も納得できなかったのは、私に申し出てきた生徒以外にも多くの生徒が知っていたのに1ヶ月間何も言ってこなかったことです。一連の指導が終わった翌日、私がいかにショックだったかをわからせるために、鬼のような形相でクラスへ行きました。傍観者にその罪深さを厳しく指導しようと思って教室に入ったのですが、いつも賑やかな生徒達が一言もしゃべらず全員下を向いて座っていました。この時私は初めてわかりました。「クラスでいじめがあったことに、一番ショックを受けていたのはクラスのみんなだった。」そんな生徒達を見て、何も言えなくなった私は、みんなの前で「ごめん」とだけ言って涙を流してしまいました。しばらくみんなと一緒に泣いたのを覚えています。それからのクラスは驚くほど雰囲気良くなり、楽しい1ヶ月を過ごしました。私がしたことはただ一緒に泣いただけでしたが、生徒達は傍観者であったことを反省し、傍観者を辞める決意をしてくれたのだと信じています。



八幡中からいじめをなくすために、いじめをしないのはもちろん、傍観者にならないことも大切です。見て見ぬふりをする人がいなくなれば、きっといじめはなくなります。私たちの手で、いじめのない学校を創っていきましょう。